

田尻を拠点に最先端製品を製造

株式会社東郷 立地協定調印式



↑調印を終え握手を交わす、中堂蘭北薩地域振興局長、東代表取締役、川添町長（写真左から）

長島町と株式会社東郷（鹿児島市・東成生代表取締役）による、企業立地協定式が6月26日、中堂蘭哲郎北薩地域振興局長を立会人として、役場庁議室で行われました。

学校の統合再編に伴い3月に閉校となった田尻小学校の学校跡地活用について町が公募したところ、同社が応募。企業の立地による新たな雇用の確保と地域への経済波及効果が得られ、地域活性化が図られることから、同学校の用地の売却および建物の無償譲渡が、5月26日に行われた臨時議会にて可決され、今回の協定式となりました。

調印後、川添町長は「本町の学校統合を進めていく中で、跡地活用が緊急な課題であるが、田尻小学校跡地において、株式会社東郷という立派な企業と協定が結ばれてうれしく思う。今回は議会も工場を視察し、安心できる企業と確認をさせていただき、地元への説明も丁寧に行っていた。今後、町としても会社運営や雇用対策にできるだけ協力を行い、田尻を拠点と

した世界に通じる企業として成長してほしい」と歓迎しました。東代表取締役は「大好きな長島町に進出できたことは大変な喜びとなっております。長島町のために、日本が掲げている地方創生のために小さな企業でも出来ることがあると思っています。この長島町から最先端の製品を世界中に販売していきたい。町の環境を壊すことなく、しっかりと管理体制と雇用ができるように成長していきたい」とあいさつしました。

同社は、精密プレス金型専門メーカーとして、昭和60年に鹿児島市で創業。最近では、主に通信機器や自動車に使われる金型や半導体パッケージ内部の配線に使われる薄板金属の金型、コネクタ型金型の製造を行い、国内はもちろん中国や台湾などの海外へも供給しており、今後さらなる受注が見込まれています。

今回の協定を経て、校舎建物を工場として利用し、現在本社にある製造機器を移設し、金属と樹脂の一体成型による付加価値の高いコネクタ製品を量産化する計画です。

同工場の操業は、平成29年10月を予定。初年度の雇用は11人を予定し、年間約3億円の生産計画を立てています。

平尾浜渡線が完成

6月9日、平尾地区で平尾浜渡線道路改良工事（秋の牟礼交差点～浜渡間）の竣工式が行われました。

この路線は、県道長島宮之浦港線から秋の牟礼集落を通り、浜渡集落へつながる唯一の幹線道路です。この区間は、線形・幅員・勾配などが悪く車両や通行に支障をきたしていました。小中学校の通学路で、港湾陸揚げや農産物を運ぶ産業道路として重要な役割を果たしていた本道の改良事業を平成18年度から実施してきました。

改良延長1579m、総事業費5億1300万円を投じ、11年間かけて事業を完了したこの日は、川添町長をはじめ、平尾地域の関係者、工事関係者など約50人が出席し、完成を祝いました。



↑テープカットし完成を祝う関係者ら